

平成28年度 都立竹台高等学校 学校経営報告

東京都立竹台高等学校長
吉川 英雄

1 今年度の取組みと自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

① 学習活動

- ・ 学力スタンダード「応用」中位レベルを設定した授業を展開。進学対応の講習及び学習の遅れに対する補習を計画的に実施。学力調査の結果、全体的に自校目標値に達しなかった。
- ・ チャイム開始とチャイム終了は定着。
- ・ ICTの活用、教材開発等、生徒の興味・関心を高める授業改善への取り組みは全体として進んだ。
- ・ 小テスト及び週末課題等への取組が全体として向上した。自学自習、学習習慣の確立への取り組みを継続する。
- ・ ペアワーク等アクティブラーニングへの取り組みが活性化しつつある。また、グループ学習や発表の取組が増え、言語能力の向上を目指した取組も進んだ。
- ・ 授業前後の挨拶の励行、居眠り、おしゃべり等の指導は定着してきた。机上整理指導の徹底が課題。
- ・ 課題図書への提示や調べ学習で図書館を活用。書評合戦（ビブリオバトル）への参加を契機に読書活動での利用者が増加した。自習室、土曜学習室の利用者も特定の生徒だけでなく、利用者が拡大しつつある。
- ・ 長期休業日中の講習・補習は、57講座実施。延べ1000以上名参加（昨年度54講座1092名）。教員による放課後及び土曜日の講習を国、数、英の3教科で実施。
- ・ 漢検、英検準2級以上の合格者27名。「全校漢字チャレンジテスト」「全校英単語テスト」を年3回継続実施。
- ・ 各教科でオリンピック・パラリンピック学習に取り組み、全体として伝統・文化面での比重が大きかった。

② 進路指導

- ・ 3年間を見通した進路指導部主体の指導体制が構築されている。1学年からの指導の充実のため進路指導行事の前倒しが実施されるとともに、年度末に1、2年生対象の新たな進路行事を実施。
- ・ ホームルーム担任による面談、進路説明会等の計画的実施や、3年生対象の模擬面接の実施、同窓会、PTAとの連携によるキャリア講座、都教委支援のNPO「鴻鵠塾」との連携行事、ウィークデイ・キャンパス・ヴィジット（WCV）を2年生全員に新規実施等で、生徒の進路意識が向上するとともに、保護者との連携も深まった。
- ・ 進路決定率は85.6%。ハローワークとの連携の下、就職希望者は年度内に100%の内定を得た。

③ 生活指導

- ・ 生活指導部による定期的な頭髪・服装指導、校門指導や、学年による定期的な遅刻指導、頭髪指導等、毅然とした生活指導を継続した結果、自覚と責任ある行動がとれる生徒が多く見られるようになった。服装・装飾品への指導での教員による個人差が課題である。
- ・ 遅刻防止の指導を継続してきた結果、改善も見られたが、改善されない特定の生徒への指導法が課題である。
- ・ スクールカウンセラー（SC）の存在及び活用法は周知され、保護者を含め相談者は増加。また、SCと養護教諭、特別支援コーディネーター及び学年担任との連絡会等を通して課題を共有できた。
- ・ 生命尊重、安全指導に関しては、セーフティ教室、防災訓練等を警察、消防及び外部機関と連携して実施するとともに全校集会等の機会に校長及び生活指導主任等からの講話を行った。
- ・ 体罰・いじめ防止の研修及び生徒への年間3回のアンケートを実施。必要に応じて管理職による相談等を実施した。

④ 特別活動・部活動

- ・ ホームルーム活動については学年内で連携が取られ、学年集会や学年行事の実施等、生徒相互の人間関係が深化。
- ・ 生徒会が主催するリーダー研修が定期的実施され、生徒が意欲的に参加。生徒会役員による朝の校門挨拶運動をはじめ、行事等で成果が表れてきた。
- ・ 体育祭、文化祭等で実行委員会や生徒会、及び放送部が積極的に活動し、学校行事を活性化。
- ・ 部活動は、66%の加入率であった（昨年度70%）。
- ・ 技術指導が出来る顧問の増加により、指導力は向上。生徒の参加率向上が課題。吹奏楽部が日本管楽合奏コンテストをはじめ、3つの全国大会初出場、軽音楽部が東京都文化連盟主催の大会で準グランプリ、東京都高等学校対抗バンドフェスティバルで2年連続決勝大会進出したのをはじめ、演劇部、バドミントン部、水泳部などが地区大会等で成果を挙げた。

- ・スポーツテストの結果を踏まえた、マラソン大会前のランニング指導等、体力向上のための取組が進められた。
- ・人権教育講演会で障害者スポーツについての理解を深めた。

⑤ 健康づくり

- ・学校保健計画に基づいた、ホームルームや保健、家庭科の授業等を通して、生徒の健康づくりが推進された。
- ・担任と養護教諭の連携を密に行うとともに、家庭との連絡を密にとり、食育等健康づくりを促進した。
- ・美化委員会を中心とした美化活動やごみの分別活動を定期的に実施した。

⑥ 募集・広報活動・地域交流

- ・募集対策委員会を中心として、学校説明会を3回、個別相談会を3回、在京外国人生徒対象の個別相談会3回、体験授業1回実施するとともに、都合同説明会に2回参加、東部地区合同説明会に1回参加。江戸川区、葛飾区、北区、進路フェアに参加。
- ・今年度は中学校主催の説明会、私塾等説明会への参加を増やすとともに、校長による塾訪問を100校以上実施。
- ・さまざまな部活動が荒川区や近隣小学校PTAが主催する行事、地域行事に参加するとともに、合同練習を実施するなど、小・中学校や地域との連携が深められた。
- ・年間を通して中学生やその保護者の学校見学について、随時対応した。
- ・ホームページ随時（160回以上）更新、校門横の掲示板を本校だけでなく、地域情報を含めた情報発信の場とした。

⑦ 学校経営・組織体制

- ・校舎全面改築に向けての基本設計が終了。改築時の体育授業の代替地は荒川区の協力のもと概ね確保。部活動の場所の確保をはじめ学習環境維持のため、荒川区及び関係団体との連携のためのネットワークづくりを推進。
- ・荒川区青少年問題協議会、荒川区青少年育成第日暮里地区委員会をはじめとする地域活動、荒川区中学校・高等学校校長連絡協議会及び近隣中学校への講演会に校長が出席し、本校の情報を発信するとともに関係機関及び地域との連携を深めた。
- ・経営参画ガイドラインに沿って経営企画室の機能向上を図り、教育職と行政職の連携は強化。
- ・教員相互の授業参観をグループ化して実施。主任層をとしたミドル層による教科内外のOJTが推進された。
- ・個人情報及びいじめ防止への厳正な管理体制は整備された。継続した研修等により、服務事故防止への取り組みを通じた意識改革が重要である。
- ・省エネ対策についての共通理解は深まるとともに、成果はあった。予算については、意図的、計画的な執行による効果的・効率的な活用が課題である。

(2) 重点目標への取組と自己評価

今年度は、① 学力の向上を重点目標とし、学力スタンダードを踏まえた各教科・科目の指導内容や方法・評価の改善を図るとともに、学習環境を整備して、生徒の自学自習を身に付けさせることに取り組んできた。また、② その他の数値目標として、校内研修、部活動の活性化、進路希望実現率、募集対策等6項目を目標に挙げた。数値目標に対する達成状況及び自己評価は下記の通りである。

(自己評価 A：達成 B：概ね達成 C：昨年度（例年）並み D：未達成)

項目	数値目標	達成状況	自己評価
①	研究授業 30 回	研究授業 37 (昨年度 21 回)	C
	放課後及び長期休業日中の講習、補習 55 座	57 座開講 (昨年度 52 講座)	A
	放課後及び長期休業日中の講習、補習参加者延べ 1200 名	1200 名 (作年度 1092 名)	A
	学力スタンダード学力テスト 全教科事項目標値クリア	目標値達成せず	D
	資格取得者数 35 名 (漢検等準 2 級レベル以上)	24 名 (漢検 13 名、英検 11 名 (準 1 級 1 名) (昨年度 27 名)	C
②	校内研修会 8 回実施	校内研修会 8 回実施 (昨年度 8 回)	B
	部活動加入率 75%以上	部活動加入率 67% (昨年度 70%)	C
	部活動都大会上位 2 部	4 (吹奏楽部 2、軽音楽部 2)	A
	生徒の進路希望実現率 95%	生徒の進路決定率 85,6% (昨年度 92,2%)	C
	学校説明会等参加者数 2500 名	学校説明会等参加者数 1640 名 (昨年度 2010 名)	C
	推薦入試倍率 推薦 3.0 倍、前期 1.3 倍、後期 1.8 倍	推薦 1.74 倍、前期 1.26 倍、後期 1.17 倍	C

2 次年度以降の課題と対応策

毅然とした生活指導により、安全な学校生活、行事の充実、部活動の活性化及び成果など、生徒の変容や学校改善につながった。また、進路指導では組織的な取組により、就職希望者の全員内定、一般入試受験者の増加等向上しつつある。

その一方、生徒の学力向上については、定期的な放課後及び土曜講習の増加、長期休業日中の講習・補習の延べ参加人数の倍増等成果をあげたが、学力スタンダードの学力テストの結果等では、学力向上面では大きな成果にはつながらなかった。

次年度に設定すべき重点課題を継続して「学力向上」とする。ただし、「生活指導」及び「進路指導」の充実、本校にとっては重点課題解決のために不可欠な要素であるので、継続して充実を図っていく。

【学力の向上】

- ・ 学力向上委員会、各教科及び学年との連携の下、教員による定期的な講習・補習の他、外部人材による学習支援、自学自習の習慣を確立するための方策を推進するとともに、授業改善のための教員相互の授業参観や授業研究・研究協議並びに校内研修を活性化させる。
- ・ 図書館、自習室及びコール教室の機能を活用する。学習活動を行う教室等の雰囲気、授業規律の確保等、学習環境を整備する。

【生活指導の充実】

- ・ 生活指導面では、頭髪指導のみならず、遅刻の減少、服装及び化粧・装飾品指導を学校全体の課題として取り組む。生活指導部を中心とした教職員全体の指導を工夫し改善につなげたい。また、保護者との連携を強化するとともに、PTA組織の支援を受けながら、基本的な生活習慣を確立させる。
- ・ スクールカウンセラーの一層の有効活用のため、組織的な研修機会を充実させる。
- ・ 挨拶、言葉遣い、マナー等、社会性の育成を図るため、接遇指導を充実させる。

【進路指導の充実】

- ・ 進路指導部を中心とした計画的、組織的なキャリア教育を推進させる。そのため、同窓会、PTA、後援会、ハローワーク等関係機関の他、地域、NPO等諸機関との連携を強化するとともに、都教委の指導、支援を継続して要請する。
- ・ 生徒の進路目標の設定を早めるために、各教科でのキャリア教育の推進を図るとともに、具体的な進路希望に沿った学力向上のための指導を推進する。
- ・ 「入れる大学」ではなく、「入りたい大学」への進路希望を実現させるため、一般受験を視野に入れた的確な指導を継続的に行う。
- ・ インターンシップの推進等、就職希望者への継続した指導を充実させる。